実証事業報告書（概要版）

令和7年度
教育関連データのデータ連携の実現に向けた実証調査研究

富士ソフト株式会社

令和8年3月31日

本報告書の内容

エグゼクティブサマリ

背景 / 目的及び取組 / 実施内容と主たる成果

各実証の成果

（実証Ⅰ）高校入試事務手続のデジタル完結に向けた実証とその取りまとめ

（実証Ⅱ）教育DXの諸要素を検討する官民連携の場の運営

総括

今後の展望と提言

©FUJISOFT INCORPORATED, All rights reserved |

エグゼクティブサマリ（１／２）

背景

デジタル庁及び関係省庁は、校務・学習支援システム間のデータ連携に関する標準規格の技術検証等を実施してきた。令和7年6月公表の「教育DXロードマップ」では、「デジタル化による教職員の負担軽減」や「データによる学習者の自己理解・教師の見取りの充実」、「生涯を通じて学びのデータを活かせる環境の整備」等が施策として位置付けられた。これを踏まえ、高校入試のデジタル完結に向けた実証や、教育データ標準化に向けた官民検討会を開催し、広域的なデータ連携の在り方等を検討した。

目的及び取組

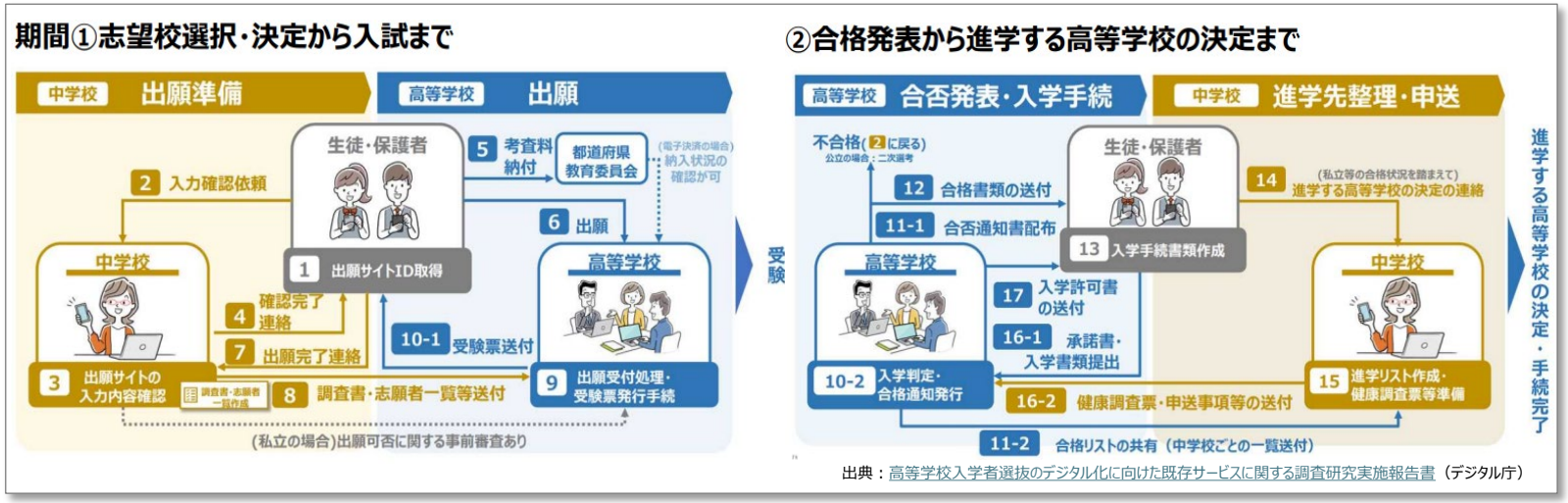
実証Ⅰ　高校入試事務手続のデジタル完結に向けた実証とその取りまとめ

目的

高等学校入学者選抜（以下、「高校入試」という）のデジタル完結※実証を地方公共団体の実際の業務環境で実施することで、**実現可能性とその効果を検証する**

取組

1. 高校入試事務手続のデジタル完結に向けた実証
2. 高校入試事務手続のデジタル完結に資するAPIの検討



出典：高等学校入学者選抜のデジタル化に向けた既存サービスに関する調査研究実施報告書（デジタル庁）

※デジタル完結の対象プロセスは、「令和5年度高等学校入試に関する調査研究」及び「令和6年度高等学校入学者選抜のデジタル化に向けた既存サービスに関する調査研究」で整理した上図の**高校入試の17プロセス**を指す。

実証Ⅱ　教育DXの諸要素を検討する官民連携の場の運営

目的

これまでの教育データ連携実証等の成果も踏まえ、複数の地方公共団体や機関に跨るデータの連携や活用に向けた検討を行い今後の課題を洗い出す

取組

1. 教育分野の認証基盤の在り方に関する検討会
2. 「自分らしい学び」の実現に向けた内容情報の活用促進検討会

検討会の開催

- ✓ 教育分野の認証基盤の在り方に関する検討会
- ✓ 「自分らしい学び」の実現に向けた内容情報の活用促進検討会

©FUJISOFT INCORPORATED, All rights reserved |

エグゼクティブサマリ（２／２）

実施内容と主たる成果

実証Ⅰ　高校入試事務手続のデジタル完結に向けた実証とその取りまとめ

1. 高校入試事務手続のデジタル完結に向けた実証

目的
- 高校入試の全17プロセスをデジタル完結させ、事例を示す

概要
- 静岡県内を対象とし、既存サービスを調整し、組み合わせた実証を実施
- 本実証に参加していない地方公共団体における導入検討の参考となるよう、導入・運用時の課題と解決策並びに導入効果を整理

成果
- **既存サービスを活用した高校入試のデジタル完結を実現**
- **運用改善のポイントを明確化**
  高校入試のデジタル完結に向け事例を示す中で、課題や利用者の疑問点を把握
- **自治体が段階的にデジタル化を進めるための標準的な道筋を提示**
  [制度・ガバナンス整備]、[システム導入・実装]、[運用]の3つの観点から段階的に整理

2. 高校入試事務手続のデジタル完結に資するAPIの検討

目的
- システムやサービスの導入・改修コストを低減し、全国のデジタル完結の取組を加速させる

概要
- 高校入試事務手続に関わる校務支援システムー出願システム間のデータ連携の実態を調査し、データ連携の在り方の一案としての技術標準の活用について検討

成果
- **技術標準活用に向けた知見・示唆の整理及び、技術標準（OneRoster）活用の可能性と将来的なデータ連携の在り方をとりまとめ**

実証Ⅱ　教育DXの諸要素を検討する官民連携の場の運営

1. 教育分野の認証基盤の在り方に関する検討会

目的
- 教育分野における組織間・個人起点のデータ連携の利活用推進に向け、真正性を担保する認証基盤の在り方を検討する

概要
- 関係省庁・有識者と連携した検討会の開催

成果
- **認証基盤の構築に向けた基本的な方向性と検討の枠組みを整理**

2.「自分らしい学び」の実現に向けた内容情報の活用促進検討会

目的
- 内容情報の標準化・活用の一層の促進に向け、内容情報に関する現状と課題、更なる可能性を検討する

概要
- 関係省庁・有識者と連携した検討会の開催
- 教科書編修趣意書の変換可否を調査し、その調査を基に学習指導要領コードと教科書の単元情報の対照リストを生成する手法を検証

成果
- **学習指導要領コードと教科書の単元情報の対照リストの必要性を確認**
- **教科書編修趣意書を基に対照リストの作成を支援するツールを作成**

©FUJISOFT INCORPORATED, All rights reserved |

本報告書の内容

エグゼクティブサマリ

背景 / 目的及び取組 / 実施内容と主たる成果

各実証の成果

（実証Ⅰ）高校入試事務手続のデジタル完結に向けた実証とその取りまとめ

（実証Ⅱ）教育DXの諸要素を検討する官民連携の場の運営

総括

今後の展望と提言

©FUJISOFT INCORPORATED, All rights reserved |

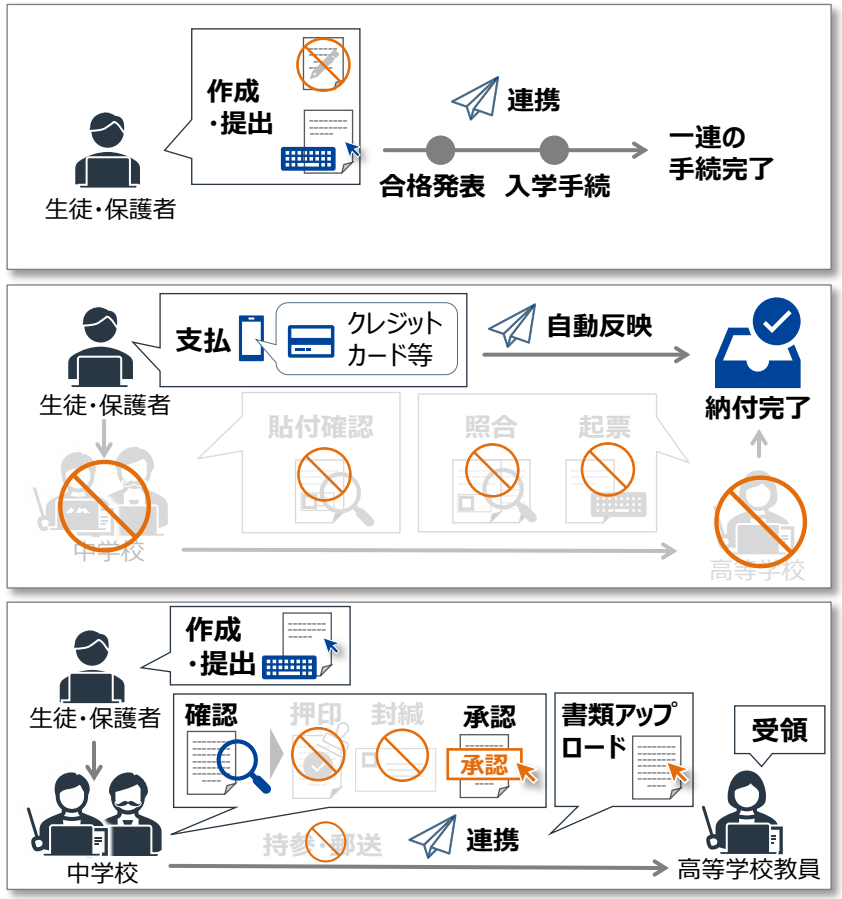
1. 高校入試事務手続のデジタル完結に向けた実証（１／２）

学校で実践可能な高校入試事務手続のデジタル化の範を全国に提示することを目的として、静岡県内の一部の公立中学校・高等学校を対象に実証を実施

- ✓ **出願から入学手続までの一連のプロセスをデジタル完結する仕組みを実現**
- ✓ **高校入試事務手続の一連のプロセスをデジタル化することで、関係者の作業や業務の負担削減に寄与**

デジタル完結

17プロセス	取組の一例
出願準備	
出願	**オンラインでの出願及び入学手続** ➢ 生徒・保護者が行う願書作成・提出、合格発表確認、入学手続をデジタル完結 ⇒ 願書の手書き等アナログな作業を撤廃したほか、出願～入学手続の情報の再入力が不要となり、データ入力業務の削減を実現
	オンライン上での考査料納付 ➢ クレジットカードやコンビニ等での納付が可能 ⇒ 収入証紙を扱った作業が不要となり、納付に係る生徒・保護者の負担軽減及び中学校教員の貼付確認の業務削減を実現
受検 合格発表 ・ 入学手続	**学校間の出願システムを介した書類連携** ➢ 願書や調査書・指導要録・健康診断票等の添付書類を、出願システム上で連携 ⇒ 紙媒体の作業が不要となり、押印の負担軽減及び封緘や持参・郵送の業務削減を実現
進学先整理 ・ 申送	



成果（作業や業務の負担削減）

生徒・保護者（2,961人）

デジタル化前	1,836 時間
デジタル化後	711 時間
差分	**1,125 時間 削減！**

中学校（50校）

デジタル化前	21,023 時間
デジタル化後	3,020 時間
差分	**18,003 時間 削減！**

高等学校（83校）

デジタル化前	2,711 時間
デジタル化後	337 時間
差分	**2,373 時間 削減！**

※成果は本調査研究における静岡県全体を示す

©FUJISOFT INCORPORATED, All rights reserved |

1. 高校入試事務手続のデジタル完結に向けた実証（２／２）

静岡県での実証成果に基づき、各地方公共団体が高校入試事務手続のデジタル化を実践するために留意しておくべき知見等を以下のとおり整理した

本実証で得られた留意すべき知見等

システム導入・実装

モデル仕様書等を活用して、具体的なシステム構成を検討する

① モデル仕様書の活用

- デジタル庁にて公開している「モデル仕様書」に記載の機能を参考に、業務の見直しを実施

② 既存サービスを活用した導入

- 要件に適合するサービスを比較検討
- 既存サービスを活用し、独自での開発は最小限に抑える

運用

システム稼働後の混乱を防ぐため、学校の教職員や
生徒・保護者への周知と、例外対応を含むサポート体制を確立する

① サポート体制の構築

- 操作マニュアルやヘルプデスクの整備
- 説明会や運用テストを実施

② リスクマネジメント

- システム障害等を見据えた問題発生時の際の備えを整備

制度・ガバナンス整備

デジタル完結の前提となる法令、条例、規則等の適合性を確認し、各所との合意形成を図る

① 既存の法令、条例、規則等におけるデジタル化可能性チェック

- 現行の法令・条例・規則等の基、デジタル化が可能かを確認
- 必要に応じて改定等を検討

② 一斉導入に向けた基礎自治体との連携

- 基礎自治体との間でセキュリティポリシーの適合性を確認
- 一斉導入に向け、スケジュールや推進体制を調整し、合意形成を図る

©FUJISOFT INCORPORATED, All rights reserved |

2. 高校入試事務手続のデジタル完結に資するAPIの検討

高校入試事務手続のデジタル完結にて扱うシステム間連携の効率化の推進を目的として、システム間のデータ連携のAPIの標準化を検討

- ✓ **連携しているデータ項目は、多くの共通点も見られたものの、連携するシステムや都道府県によって若干の差異が見られた**
- ✓ **システム間の連携で用いる技術については、OneRosterによる標準化の検討が可能である**

校務支援システムー出願システム間のデータ連携の実態調査

調査対象	• 校務支援システム事業者 • 出願システム事業者
調査内容	• データ項目について※ • システム連携・標準化について

※対象：
名簿情報（生徒基本情報、入学者基本情報）
成績情報（調査書）

- ✓ 校務支援システムと出願システムで連携するデータ項目は**都道府県によって差異があり、技術標準を活用したシステム間連携の検討が期待される**

実態調査を踏まえ、

技術標準の一つであるOneRosterを対象に、実態を踏まえた標準化に向けた検討を実施

【OneRosterを適用した場合の標準化の方針（案）について】

名簿情報	Rostering Serviceを主に活用 ➢ 学校、クラス、教職員、児童・生徒、履修関係等の名簿情報を連携するためのサービス
成績情報	Gradebook Serviceを活用 ➢ 課題、評価項目、成績結果等の学習評価データをシステム間で共有するためのサービス

【標準化に向けた今後の方針について】

技術標準の活用以前に、システムや都道府県ごとにデータ項目の差異が発生中
⇒技術標準の活用検討と並行して、**全国規模の標準化の議論が待たれる**
⇒都道府県や学校法人ごとの**差異を追加で定義できることが求められる**

標準の精緻化にあたっては、専門家等の有識者及び関連するステークホルダーの知見を取り入れながら進める方針となった

©FUJISOFT INCORPORATED, All rights reserved |

教育DXの諸要素を検討する官民連携の場

教育DXの推進に向け、官民が連携して課題を整理し、実効性のある仕組みを検討することを目的とし、検討会を開催

1. 教育分野の認証基盤の在り方に関する検討会

開催期間
令和7年3月～4月

教育分野における認証基盤の在り方に関する検討会取りまとめ
- ✓ **公的認証基盤の活用の方向性を整理**：組織認証には「GビズID」、個人認証には「マイナンバーカード（公的個人認証）」を活用（※マイナンバー自体は使用しない）
- ✓ **今後のロードマップ提示**：令和7年度に調査研究を実施し、その後技術実証や先行導入を経て、段階的に全国規模での社会実装を目指す方針

会議概要
教育データの連携にあたって、主体・データの真正性確保のための認証基盤について、有識者から構成される検討会を立ち上げ、関係省庁と連携し、検討会を実施した。

＜教育分野の認証基盤の在り方に関する検討会における公開物について：https://www.digital.go.jp/councils/education-authentication＞

2.「自分らしい学び」の実現に向けた内容情報の活用促進検討会

アイデアソン

開催期間
令和7年8月

会議概要
現役教職員等20名以上を集めて「内容情報アイデアソン」を開催し、**学校現場の視点から、学習内容のコードをどのように活用すれば「自分らしい学び」につながるか**を議論。

＜内容情報アイデアソンについて：https://digital-agency-news.digital.go.jp/articles/2025-10-08＞

検討会

開催期間
令和7年9月
～令和8年3月

内容情報の活用促進検討会審議まとめ
- ✓ **対照リストの必要性を確認**：学習指導要領コードと教科書の単元情報の対照リストの必要性を確認し、対照リスト作成支援ツールを作成
- ✓ **継続的な議論の提唱**：将来的な内容情報の充実及び教育データ利活用の可能性を広げるため、今後も関連省庁や関係者による継続的な情報連携や対話が求められる

会議概要
教育データの標準化の推進の一環として、内容情報の標準化及び活用の一層の促進を目的とし、関係省庁と連携し、検討会を実施した。なお、内容情報のユースケースについては、アイデアソンにおいて聴取したアイデアを参考とした。

＜「自分らしい学び」の実現に向けた内容情報の活用促進検討会における公開物について：https://www.digital.go.jp/councils/enrich-learning-content ＞

©FUJISOFT INCORPORATED, All rights reserved |

本報告書の内容

エグゼクティブサマリ

背景 / 目的及び取組 / 実施内容と主たる成果

各実証の成果

（実証Ⅰ）高校入試事務手続のデジタル完結に向けた実証とその取りまとめ

（実証Ⅱ）教育DXの諸要素を検討する官民連携の場の運営

総括

今後の展望と提言

©FUJISOFT INCORPORATED, All rights reserved |

今後の展望と提言

	本調査研究を経ての現在地	今後の展望と提言

実証Ⅰ	**1. 高校入試事務手続のデジタル完結に向けた実証**
	• **デジタル完結の実現性と効果の証明**
	  • 高校入試事務手続に係る全17プロセスのデジタル完結を実証
	  • 実証から明らかになった、導入・運用時に想定される課題や対策を踏まえ、円滑な導入に向けた留意しておくべき知見等を整理
		• **各都道府県での調達・導入の本格化**
		  • 実証成果や「モデル仕様書」を活用し、自治体の実情と照らし合わせながら、具体的な導入を推奨する
		  • 出願から入学手続まで包括的な高校入試事務手続のデジタル完結の実現が期待される

実証Ⅰ	**2. 高校入試事務手続のデジタル完結に資するAPIの検討**
	• **技術標準活用の方向性整理**
	  • システム間連携の実態を調査し、技術標準（OneRoster等）活用の可能性を示唆
		• **API・データ項目標準化と普及に向けた取組**
		  • 名簿・成績情報等データ項目の全国規模の標準化の検討が進み、調達等をとおした普及が期待される
		• **成績情報の標準化によるユースケースの創出**
		  • 高校入試事務手続以外での成績情報の新たなユースケースによる教育データのさらなる利活用促進が望まれる

実証Ⅱ	**1. 教育分野の認証基盤の在り方に関する検討会**
	• **認証基盤の方向性の策定**
	  • 組織間・個人起点のデータ連携において真正性を確保する「教育分野の認証基盤」について、調査研究が進行中
		• **教育分野の認証基盤の実現に向けた事業の推進**
		  • 既に進められている調査研究に加え、今後は令和8年度の技術実証を経て、社会実装に向けた議論の場を設ける等、現場実証に向けて段階的な取組の実施が求められる

実証Ⅱ	**2.「自分らしい学び」の実現に向けた内容情報の活用促進検討会**
	• **内容情報を活用したユースケースの検討**
	  • 学習指導要領コードと教科書の単元情報を紐づけた対照リストを含む内容情報を活用したユースケースの議論を実施
		• **「データによる学習者の自己理解・教師の見取りの充実」の実現**
		  • 制度・技術・運用の各面の課題のさらなる検討により、内容情報の活用、さらにはユースケースの実現が望まれる

©FUJISOFT INCORPORATED, All rights reserved